

関東エコロジカル・ネットワーク10年間の歩みと展望

河川部 河川環境課 渡邊 菜月

1. はじめに

関東エコロジカル・ネットワーク（以下、「関東エコ・ネット」とする）は、2013年から10年にわたり、コウノトリ・トキを指標（シンボル）として、河川・水田等の生物多様性の価値やグリーンインフラとしての防災・減災の機能に注目し、流域治水の取組と共に、水辺環境の保全・整備や地域振興等を通じた魅力的な地域づくりを関東広域・多様な主体の連携のもとで進めてきた。

栃木県に位置する渡良瀬第二調節池内では、コウノトリの野生繁殖が4年連続で成功し、周辺地域の農産物のブランド化など地域振興の取組が進められている。特に利根川流域においてコウノトリの繁殖や飛来数の増加が確認されており、生態系ピラミッドの頂点にいるコウノトリの増加は、豊かな環境が形成、保全されていることを意味する。このようにグリーンインフラの整備で形成されてきた生態系ネットワークを資源として、各自治体は観光やまちづくりに活かした地域活性化を実践してきた。

しかし、関東エコ・ネットの認知度が上がらないことを問題とし、今までの成果を維持し、効果を広く浸透させていくため、効率的な広報を課題として実施した「関東エコ・ネット10周年シンポジウム」での工夫とその結果を紹介する。

2. 実施内容

「関東エコ・ネット10周年シンポジウム」は、10年間の取組や成果を振り返ることを目的に千葉県野田市役所で一般の方を対象として開催した。関東エコ・ネットの会長である涌井史郎氏による「関東エコ・ネット10年とこれから」をテーマとした講演や、小学生からの関東エコ・ネットに関する質問に回答するコーナーや、「河川を基軸とした生態系ネットワークによる魅力ある地域づくり」をテーマに、野田市長、小山市長、学識者、河川管理者によるパネルディスカッションを行った。シンポジウムでは、関東エコ・ネットの取組を知らない人でも楽しめるように工夫を行った。



シンポジウムの会場の様子

2. 1 関東エコ・ネット紹介動画の作成

関東エコ・ネットとは何か、その取組の成果等の紹介動画の作成では、野田市が放鳥したコウノトリの飛来が年々増えてきている図を使用することで取組成果を視覚的に実感出来るようにした。

2. 2 関東エコ・ネットパンフレットの作成

関東エコ・ネットに参加する多様な主体がどのような役割を担っているのか、どのような取組を実施しているのかを整理して、関東エコ・ネットへの理解や関心を深める工夫をした。



関東エコ・ネットパンフレット

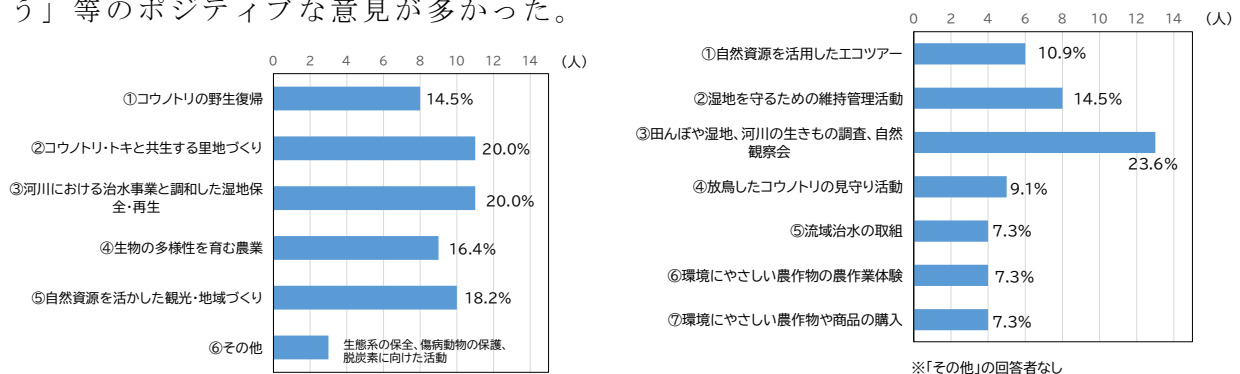
2. 3 パネル展・グッズ展の開催

各主体の取組をポスター展示で紹介するとともに、関連グッズの展示・販売も実施した。関東エコ・ネットの取組を理解してもらう機会に併せて関連グッズの買い物をしていただくことで地域への還元にも寄与することができた。

また、8月から各施設で実施してきたパネル展と連携させ、連携施設のみでしか配布されない「関東エコ・ネットカード」の配布を行った。「関東エコ・ネットカード」は初めての試みであり、カードの表にコウノトリの写真を配置し、裏に施設と関東エコ・ネットの関わり等を紹介することで取組を周知することができた。

3. 結果

シンポジウムの参加者55名からアンケートを実施したところ、関東エコ・ネット等の取組について知らない人は15名だった。そのうち、コウノトリ・トキをシンボルとした取組の問いでは、「コウノトリ・トキと共生する里地づくり」と「河川における治水事業と調和した湿地保全・再生」が最も回答数が多く、関心が高かった。また、参加したい・やってみたい取組の問いでは、「田んぼや湿地、河川の生きもの調査、自然観察会」の回答数が高かった。さらに、シンポジウムの感想は、「経済効果があるとは思わなかった」「様々な役割の人が向かうべき目標が定まっているので、非常に良い取り組みだと感じた。生態系を考慮したこのような取り組みが各地域で行われたらいいと思う」等のポジティブな意見が多かった。



コウノトリ・トキをシンボルとした取組
で関心があるのは何か (n = 15) (複数
数回答可)

参加したい・やってみたい取組は何か
(n = 15) (複数回答可)

4. 考察・今後の予定

関東エコ・ネットの取組を知らない人にもシンポジウムに参加していただけたことは、重要なことで、関東エコ・ネットを知らない人が関心を持っているテーマのイベントと併せて取組を紹介することで、理解や関心を広げていけるのではないかと推測できた。

今回のシンポジウムで活用した関東エコ・ネットの理解を深めるためのツールを今後もHPやSNS等を通じて継続して発信すると共に、これらのツールを多様な主体が使用しやすいよう、効率的に情報を共有していくためのポータルサイトの検討・試行を来年度以降検討していきたい。今までは、関東エコ・ネットの事務局を介してやりとりされていた資料・情報等のデータをポータルサイトで共有することで、多様な主体の情報も一元化し、効率良く情報交換・公開することで、より効果的に関東エコ・ネットの認知度UPに繋がっていききたい。